

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.415



2015.3

ご近所付き合い

お隣は霧多布湿原からのご挨拶です。私は霧多布湿原センターに勤めています。運営団体のNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストは、文字通り霧多布湿原をナショナルトラスト運動により保全する活動を行っている団体です。

霧多布湿原は広大な面積による雄大さを感じる一方で、丁度好い塩梅の広さといえますが、琵琶瀬展望台からは湿原のほぼ全域を確認ことができ、箱庭の様な印象を受ける不思議な湿原です。また、花の湿原としてエゾカンゾウやワタスゲの群落は見事で、毎年自然や美味しい海産物などを目当てに多くの旅行者が訪れます。

霧多布湿原センターは、地域子ども達への環境教育や、旅行者へのエコツアー、カフェやミュ

ージアムショップの運営など、業務は多岐にわたりますが、2012年度より「ハーバリウム霧多布」という活動を行っており、釧路市立博物館の加藤学芸員に協力を頂いています。ハーバリウムは植物標本集や標本館を指す言葉で、霧多布湿原を中心に浜中町内の植物標本を作成し保管するための活動です。一般的には少しマニアックな部類の活動になるのですが、ボランティアの方々との植物の採集作業は和気あいあいと楽しいものです。興味のある方はぜひお問い合わせください。

北海道民であれば釧路から霧多布湿原までの約90kmはご近所感覚でしょうか。同じ湿原同士、これからもどうぞよろしく。

霧多布湿原センター 館長 阪野 真人

浜中町の植物相を調べて標本を作製する取り組み「ハーバリウム霧多布」は、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの主催で平成24年度に始まりました。博物館は24年秋から協力として、今年度からは共催事業として取り組んでいます。作成した標本は当館にも収蔵する予定です。また、当館の霧多布湿原観察会ではトラストにご協力いただいています。このような協力関係を今後もぜひ続けていきたいと考えています。(加藤 ゆき恵)



▲標本作製作業

3月号目次

ご近所付き合い	阪野 真人	2
企画展「『くしろ』のいきもの」	加藤ゆき恵・貞國 利夫 編	3
特別展・私の博物館		
「地図・絵はがき・観光ガイドで見る あの日々の釧路・阿寒」展示の経緯	岩村 誠二	7
チャランケチャシ	戸田 恭司・高橋 勇人	11
博物館ニュース		12



企画展「阿寒国立公園と硫黄鉱山」
(川湯EMCでの移動展)

〈表紙写真〉 阿寒国立公園指定80周年記念企画展「阿寒国立公園と硫黄鉱山」 明治期、本格的に開発が始まった弟子屈・跡佐登山、道内2番目に敷設された釧路鉄道、そして戦後の阿寒硫黄鉱山(雌阿寒岳)の厳しい環境下での採掘や人々の暮らしを、当時の資料や写真で紹介しました。展示は弟子屈(川湯温泉)、標茶、足寄、阿寒湖畔を巡回します。写真は阿寒硫黄鉱山、中マチネシリ「大噴」で硫黄の原鉱を運ぶ鉱車を押す人たち。撮影:青井祐一氏[同鉱山OB] (石川孝織)

釧路市立博物館館報 No.415 2015年3月号 2015年(平成27年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 木村 俊宏 編集 石川 孝織・土屋 慶丞・貞國 利夫 印刷 ㈱藤プリント